



大樹のこころ

感謝の会

6年生が卒業プロジェクトを推進しています。卒業を前にして、お世話になった大樹寺小のために恩返しをしていこうという企画です。その中の一つに「ありがとうプロジェクト」があります。そのプロジェクトが、本日「感謝の会」として実施されました。

感謝の会は、子供たちの登下校を見守ってくださる交通指導員さんやボランティアの方々を対象です。ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、指導員さんの代表お一人を招いて、放送で行われてきました。しかし今年、感染状況も落ち着いてきているということもあり、全校児童が体育館に集まって実施されました。直接顔を合わせて感謝の気持ちを伝えることができる形となり、とても嬉しく思いました。

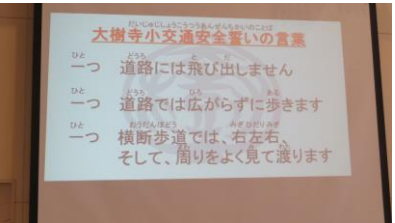
司会進行はありがとうプロジェクトを推進する6年生です。会の最初に、進行の6年生がボランティアの方々の紹介をしました。交通指導員さんは「0の日」や「交通安全運動期間」の登校時に交差点に立ってくださいます。各町のボランティアの皆さんは、登下校に付き添ったり、下校時間に危険な個所に立ったりしてくださっています。この紹介を聞きながら、心から感謝の気持ちが芽生えてきました。

セレモニーは代表児童による感謝の言葉に続き、花鉢並びにお礼の手紙の贈呈です。お礼の手紙は全校児童が書いたものを冊子にしたものです。大きな拍手が体育館を包み込みました。

ボランティアを代表して、交通指導員さんの三浦さんから、お言葉をいただきました。「1年間で約500名に一人の割合で交通事故に遭う」というお話が心に残りました。全校児童が600名の本校。今後も気を引き締めていかななくてはと思いました。

会の最後に、全校児童で「大樹寺小交通安全誓いの言葉」の唱和です。「一つ 道路には飛び出しません」「一つ 道路では広がらずに歩きます」「一つ 横断歩道では、右左右、そして周りをよく見てわたります」。これらの誓いが体育館中に響き渡りました。

温かな雰囲気、とても素晴らしい感謝の会になりました。ありがとうプロジェクトの6年生。こんな素敵な会を企画運営してくれて「ありがとう」。



「ジュニア家康公検定」の表彰式が2月18日(土)にせきれいホールで行われました。最高賞となる「家康賞」を受賞した本校児童2名は、壇上にて表彰を受けました。実に立派な姿でした。